

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 確かな学力の育成～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成を図る
2. 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する
3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、多様な社会でたくましく生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する

1. 確かな学力の育成～基礎・基本の徹底、他者との協働の中で考え自分の言葉で説明できる力の育成

- (1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定とそれに基づいた教科指導
- (2) 進路部主導で教育産業による学習支援システムを活用し、学習意欲・学習習慣を身につけ、自学自習の力を育む
- (3) ICT機器やタブレットの積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る
- (4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす
- (5) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (6) 新学習指導要領や観点別評価の確実な実施、確かな学力が大学入試共通テストに結びつく対策をおこなう

※大学入学共通テスト 対全国平均得点率15%アップ(令和3年度 大学入学共通テスト全国比較14%アップ)(R113%・R210%・R314%)
(得点率をあげることで、国公立大学や難関私立大学への受験希望者の第1希望の割合を維持する。)

2. 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける～チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う
- (3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神やグローバル社会に対応できる人材の育成を図る
- (4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる
- (5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨
- (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進

※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率(R3 87.5%)を令和6年度には92%にする。

(R1/89.9%・R2/90.7%・R3/87.5%)

※「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率(R3 88%)を令和6年度には92%にする。(R1/84.7%・R2/84.9%・R3/88%)

3. 学校力のパワーアップ～保護者や地域の連携を大切に、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくりを進める
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの定着(各教科・学年・分掌)
- (3) 教職員の組織的・継続的な人材育成 首席・指導教諭などを中心とした課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 安心安全で魅力ある学校づくり～教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる
- (5) 広報戦略を検討し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する ※時間外勤務月80時間以上の職員昨年度比で7%減

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 質問全16項目のうち肯定的に回答した生徒が80%を超えた項目は、今年度は14項目(R3 14項目)、90%を超えた項目について、今年度は9項目(R3 7項目)だった。全項目の平均値は3.33(R3 3.28)で、過去7年間で最高の結果となった。</p> <p>○「教育方針や教育計画を分かりやすく示している」がR3は87.6%だったが今年は87.4%になり、学力向上委員会の主導で教員が学習における目標設定について協議し、ここ数年で研究授業が定着し教授法なども教員間で共有できていることが評価につながっていると考えられる。今後、オンライン学習のさらなる充実や補助教材等の導入等も含め、進路部、学力向上委員会が学年と連携してさらなる改善を進めていくことが必要である。</p> <p>○「学校で命の大切さや、人権について学ぶことがある」の項目は81.3%の生徒が肯定的に答えており、過去3年連続して低下した(R3 87.5% R2 90.1%)アンケート実施時期の影響もあると思われる。</p> <p>【保護者】 全15項目のうち肯定的に回答した保護者が80%を超えた項目は、11項目(R3 10項目)であった。全項目の平均値3.14(R3 3.10%)は向上しており、特に令和2年度のコロナ初年度からすべての平均は向上しておりコロナ前の状況まで回復したと言える。</p>	<p>【第1回】 令和4年7月13日(水) 1. 今年度の委員・事務局の紹介および会長・副会長の選出 2. 報告事項 ①令和4年度学校経営計画および令和3年度学校評価について ②観点別評価に関する取組み ③1人1台GIGAスクール構想に関する取組み ④授業力向上に関する取組み ⑤人権教育に関する年間の取組みについて ⑥コロナ禍での生徒会行事について ⑦スクールミッションについて 3. 協議 ①～⑥についてコメントがあった。 ・観点別評価はすでに義務教育ではスタートしていて、それが高校へ継続していくものと期待している。 ・3年ぶりに開催されたコーラス大会を見ることができ感動した。学園祭は保護者が見学できたが、体育祭もぜひ保護者の見学を許可してほしい。 次回にスクールミッションの決定を確認した。</p> <p>【第2回】 令和4年11月18日(金) 1. 授業見学 — 各授業20分程度見学 ①数学B(2年) ②言語表現(1年) ③歴史総合(1年) 2. 報告事項 ①学習支援クラウドサービスの活用について — 生徒および教員対象 ②校内研修の取組み — ICT研修・校内研究授業・授業見学週間</p>

<p>○最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という項目では、強い肯定が 58.6%(R3は 55.2%、「先生は子どものことを真剣に考えてくれるので信頼している」の項目では強い肯定が 42.9%(R3 41.3%)であり数値は向上しているがこれからも今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。</p> <p>○「施設設備の面で、学校の学習環境は整備されている」の項目は否定が 61.9%(R3 56.2%)であり、半数以上の保護者が建物の老朽化などに不満を感じて数多く指摘を受けている。建て替えの決定が決まり、体育館のエアコンの設置も行われるので今後回復が見込まれるが、建て替え工事期間も含めて生徒の活動を保障できるように配慮していきたい。</p> <p>【教職員】 全 15 項目で肯定的な回答が 80%を上回ったのは 13 項目(R3 6 項目)で昨年より 6 項目増えた。また、全項目の平均値は 3.18(R3 2.95)で過去 7 年間で最高の結果となった。</p> <p>R1 から 4 年連続で向上している「教授法や教材研究など自己研鑽の時間や生徒と向き合う時間が確保できている」は授業力向上の研修などの結果であると思われる。</p> <p>○「学校の教育相談体制は十分に機能している」「学校の人権教育は十分に機能している」とともにやや向上した。人権教育推進委員会を設置し、一定の理解を深めつつあるが、84.6%(R3 72.3%)で向上している。また教育相談体制は強い肯定は 32.7%(R3 16.7%)と昨年度と比較して大きく向上した。生徒支援会議が機能し生徒への寄り添いを感じる機会が増えたことが理由になると考えられる。さらに生徒に寄り添いながら、生徒の観察及び指導が組織として徹底されるように改善点を探したい。</p> <p>○「学校において各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」では 90.4%(R3 88.9%)。1 年生で観点別評価が始まり、定期考査の自動採点ツールの活用など各教科で議論する時間が増えた結果だと思われる。観点別評価もまだまだ試行錯誤の段階であり、教科内で時間をなんとか見つけて情報共有するべく取り組んでいきたい。</p>	<p>③観点別評価について — 現状と課題</p> <p>④前期授業アンケート結果</p> <p>⑤スクールミッションについて</p> <p>3. 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学に関する講評 「以前は、小・中での授業と高校での授業の違いが気になったが、今年見学した授業については、小中との接続がなされていて安心した」 ・観点別評価に関する中学校の先行事例から課題に対するアドバイス ・授業力向上の取組みに対する評価と課題 ・生徒の人間力を高める取組みについて ・スクールミッションについては前回提示のものが承認された <p>【第3回】 令和5年2月15日(水)</p> <p>1. 報告事項</p> <p>①進路結果について — 中間報告</p> <p>②人権教育について</p> <p>③授業アンケート結果について</p> <p>④学校教育自己診断について</p> <p>⑤令和4年度学校経営計画(評価案)と令和5年度学校経営計画案について</p> <p>2. 協議</p> <p>①～⑤について、また、本校の教育全般についてコメントがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の中で数値をきちんと出し、それについてしっかり検討されている。基本的なことであるが、素晴らしいこと。 ・共通テストを91%の生徒が受験したと報告があったが、残りの9%の生徒にも焦点を当ててほしい。 ・先生方がチームとして教育活動をリードしていることがうかがわれる。 ・生徒が自分の持っている力を鍛える教育を期待している。 ・家庭学習の時間が増えていることは望ましい。 ・海外研修が本格化する際に、一歩突っ込んだ交流を期待する。【
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定とそれに基づいた教科指導</p> <p>(2) 進路部主導で教育産業による学習支援システムを活用し、学習意欲・学習習慣を身につけ、自学自習の力を育む</p> <p>(3) ICT機器やタブレットの積極的活用、授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る</p> <p>(4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす</p> <p>(5) 講習、補習の計画的実施と内容の充実</p> <p>(6) 新学習指導要領や観点別評価の確実な実施、確かな学力が大学入試共通テストに結びつく対策をおこなう</p>	<p>(1) 学力向上委員会と進路部の主導で、各学年・各教科等の3年間の学習目標と計画を策定し、生徒・保護者に示す。授業の実施にあたっては、共通事項を決めて実施する。</p> <p>(2) 年2回の到達度テストを実施。振り返りの実施で弱点補強と学習意欲の向上を図る。</p> <p>(3) 学力向上委員会が主軸となり研修会を実施。学習支援クラウドサービス等の活用方法について、研究し、教員力向上の支援をおこなう。</p> <p>(4) 公開授業、研究協議を全教員で実施し、「授業力」の向上を図る。</p> <p>(5) 進路部が統括して講習を計画的に実施する。授業以外のサポート体制を充実する。</p> <p>(6) 新学習指導要領のねらいを理解し、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった指導と評価の一体化を確実に実施。</p>	<p>(1) すべての教科において研究授業・研究協議を実施 模試等の結果について各学年・教科で振り返り、指導内容・方法等について確認する (教職員自己診断) 教育目標を共有し、組織的に取り組む70%以上 [63.8%] 学校教育自己診断(生徒・保護者) 「方針や活動・計画を分かりやすく示している」生徒85%保護者89%以上 [83%・88%]</p> <p>(2) 授業アンケートの「授業に集中」の項目で88%以上 [87.6%] 学校教育自己診断(生徒)「自分で計画を立て、家庭で学習する時間」75%以上[73.5%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度「教え方の工夫・授業がよくわかる」を91%を維持する [90.8%]</p> <p>(4) 相互授業見学週間の実施 大学入学共通テストの全国平均に対する得点率15%アップ</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断の「講習や補習」92%を維持 [91.9%]</p> <p>(6) 進路指導部を中心とした検討会議を定期的に行い職員で共通理解の場を作る。 学校教育自己診断(教職員)「各教科において学習指導計画や評価について十分な議論がなされている」89%以上 [88.9%]</p>	<p>(1) ・教育目標共有(◎)90.4% ・方針活動提示 生徒87.4%(○) 保護者86.3%(△)</p> <p>(2) ・授業に集中(○)88.8% ・自分で計画、家庭学習(○)75.1%</p> <p>(3) ・教え方の工夫(○)92.7%</p> <p>(4) ・春秋2回実施(○) ・共通テスト(△)9.3%</p> <p>(5) ・講習補習(◎)94.4%</p> <p>(6) ・模試分析会、観点別評価対策会等(○)10回 ・十分な議論(○)90.4% ※観点別評価導入によると考えられる</p>

府立寝屋川高等学校

<p>2 夢と志を持ち、能動的に学ぶ姿勢を身につける</p>	<p>(1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う (3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神、グローバル社会に対応できる人材の育成を図る (4) 生徒のコミュニケーション能力、文章や情報を読み解き対話する力を向上させる取組みを充実させる (5) 社会貢献やボランティア活動、地域との連携、各種コンテストなどへの積極的参加の推奨 (6) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣・規律（挨拶、時間、清掃、感謝、貢献）が将来の進路実現に繋がることを日常的に全職員で指導に当たる。 学年団を中心に、総合的な探究の時間を活用し、将来の職業選択に生きるキャリア教育を進める。 (2) 生徒会中心に全日制と定時制の連携を図り、協働の取組みを行う。 近隣の小中学校、高等学校や地域との連携の方法を模索し実施 部活動を通じたリーダーの育成を図る。 (3) 人権研修の在り方を探究委員会で検討し、全体計画を作成する。 3年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動の充実 (4) タブレットを含むICT機器を活用し、プレゼンや発表の機会を校内外で実施する (5) 授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進 (6) 2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほか文芸Gが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼びかける。</p>	<p>(1) 全職員で実施 生徒の学校教育自己診断「進路選択について相談する機会」89%を維持 [88.5%] 「自分のスケジュールを管理し、学校行事や部活動と学習に両立ができる」73%以上 [70.6%] 年間遅刻回数 1100件をめぐす [1384件] (2) 生徒の学校教育自己診断「学校行事に積極的に楽しく参加」92%を維持 [92.3%] (3) 人権教育の評価(生徒) 88%を維持 [87.5%] 考えをまとめ発表する機会(生徒) 88%を維持 [88%] (4) 総合的な探究の時間、修学旅行プレゼン、人権及びSDGs探究学習、英語スピーチコンテスト等の実施 肯定 88%を維持 [88%] (5) 校内コンテスト実施 外部のコンテスト等への参加および参加促進 寝屋川市や小・中学校との様々な連携 (6) 全員対象の読書コンクール 読書マラソンの実施</p>	<p>(1) ・相談する機会(○) 92% ・行事部活動と学習の両立(△) 72% ・年間遅刻(△) [2199件] (2) ・行事に参加(◎) 94.9% ※実施行事増加によると考えられる (3) ・人権教育(△) 82.3% ・発表する機会(◎) 92.8% (4) 「探究、プレゼン等」 (◎) 肯定 92.8% (5) ・コンテスト等(○) 読書感想文コンクール2名表彰(優秀賞、入選)わくわく教室 (6) ・読書マラソン(○) 申込 28名、達成 12名※昨年より増加</p>
<p>3 学校力のパワーアップ</p>	<p>(1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくりを進める (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの定着(各教科・学年・分掌) (3) 教職員の組織的・継続的な人材育成 首席・指導教諭などを中心とした課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る (4) 安心安全で魅力ある学校づくり～教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる (5) 広報戦略を検討し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する</p>	<p>(1) 「寝屋高みらいPT」を活性化し、学校の課題を洗い出し内外に向けた魅力化を図る。めぐす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設け、教育全体を見据えた業務の連携を探る。 (2) 学校教育自己診断、学校運営協議会の意見等を学校運営改善に反映させる。各学年・分掌・委員会の「総括」から、個人だけでなく、組織(分掌・学年等)目標を立てた取組みにする。 (3) 次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。 経験年数の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。 (4) 教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める。ケース会議やSCによる教員研修の実施。感染症予防を含む防災に関するLHRを計画する。 (5) 学校紹介PPや学校案内(次年度向け)のリニューアル 保護者向けメールの徹底周知 寝屋川市や地域との連携で生徒の活動を支援する。 (6) 働き方改革について検討する。 各学年、分掌内における業務の精査</p>	<p>(1) 目標共有にかかる職員自己診断結果 70%以上 [68.8%] (2) RPDCAサイクルにかかる職員自己診断結果 60%以上 [58.26%] 学校教育自己診断 職員提出率 100% (3) 実施回数と振り返り 5回以上 (4) 職員自己診断結果(教職員) 75%以上 [72.3%] (生徒)88%を維持 [87.5%] (5) 生徒や経験年数の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、HPの内容の生徒の活動等における更なる充実を図る。 寝屋川市や地域と連携した生徒会活動 学校行事に積極的に参加している 92%を維持 [92.3%] (6) 時間外勤務時間を昨年度比7%減 [5%]</p>	<p>(1) ・教育目標共有(◎) 90.4% (2) ・RPDCAサイクル(◎) 71.2% ・提出率 85.2%(△) (3) 5回(○) ・10年研受講者に管理職が指導助言 ・指導教諭が校内研修をリード ・初任者対象に経験者より講義 (4) ・教育相談 教職員 84.6%(◎) 生徒 82.3%(△) (5) (○) ・学校説明会 16回 ※経験年数の少ない教員の参加、個別相談の機会の充実 ・学園祭で社会福祉法人と交流 ・吹奏楽、ダンス等地域行事に参加 94.9% (6) (○) 時間外 8%減(12月) ※職会ペーパーレス化、採点ソフトの導入</p>